



2020年1月30日

各位

2019年12月期連結決算および2020年12月期見通し

- ・ 2019年度売上収益 6,862 億円(+18.4%)、Core 営業利益 2,249 億円(+72.6%)。いずれも3期連続で過去最高
- ・ 2019年度期末配当予定額は、特別配当 44 円を含む 92 円(年間配当 140 円)
- ・ 2020年度業績見通しは売上収益 7,400 億円(+7.8%)、Core 営業利益 2,750 億円(+22.3%)。研究開発ではスイッチ抗体の臨床試験を開始予定。
- ・ 中期経営計画 IBI 21 の計量目標を上方修正。3年間での Core EPS 年平均成長率目標を「High single digit」から「30%前後」へ
- ・ 配当方針を変更。Core EPS 対比配当性向の目途を「平均して 50%」から「平均して 45%」へ

中外製薬株式会社 (本社：東京、代表取締役社長 CEO：小坂 達朗) は、本日、2019年12月期連結決算および2020年12月期見通しを発表しました。

代表取締役社長 CEO の小坂 達朗は、「中期経営計画 IBI 21 の初年度である 2019 年は、ヘムライブラのグローバル市場での順調な拡大を主因として売上・利益ともに 3 期連続で過去最高となり、将来の成長ドライバーとして期待するサトラリズムブのグローバル申請も果たすなど、大変充実した 1 年でした。好業績と今後の業績拡大見通しを反映し、IBI 21 における 3 年間の Core EPS 年平均成長率目標を大きく引き上げ、『30%前後*』の高い目標にチャレンジしていきます。また、新たに『平均して 45%*』の Core EPS 対比配当性向を目途とし、安定配当の堅持と、今後のイノベーションに向けた投資を支える財務基盤の確保を図ります。患者中心の高度で持続的な医療の実現に向け、2020 年も邁進します」と語っています。

*いずれも 2020 年 7 月 1 日効力発効予定の株式分割を考慮しないベース

<2019 年 12 月期業績>

2019 年 12 月期の業績 (Core ベース) は、大幅な増収増益により、売上収益、営業利益および当期利益がいずれも 3 期連続で過去最高となりました。血友病 A 治療薬ヘムライブラ[®]、がん免疫チェックポイント阻害剤テセントリク[®]、HER2 陽性乳がん治療薬パージェタ[®]をはじめとする新製品および主力品の貢献、輸出の好調等による製商品売上高の二桁増に加え、ヘムライブラの寄与によるロイヤルティ等収入及びその他の営業収入の大幅な増加により、前年と比較して売上収益は 18.4%増加しました。加えて、自社品の売上拡大に伴う製品別売上構成比の変化等により製商品原価率が改善し、営業利益は 72.6%増加しました。

こうした好業績を反映し、当社の配当方針を踏まえ、期末配当金は 44 円の特別配当を含む 1 株当たり 92 円を予定しています。この結果、年間配当金は 1 株当たり 140 円、Core 配当性向は 5 年平均で 47.4% (単年度では 45.8%) です。

研究開発活動も順調に進捗し、サトラリズムブの日米欧同時申請、ネモリズムブの米国食品医薬品局による画期的治療薬の指定など、自社創製の抗体プロジェクトが大きく進展するとともに、テセントリクの二つの適応

拡大を達成しました。また、がんの個別化医療の領域では、がん遺伝子パネル検査「FoundationOne[®] CDx がんゲノムプロファイル」を発売し、がんゲノム医療への貢献を進めました。このほか、将来の成長を支える基盤整備も進み、新たな中核的研究拠点である中外ライフサイエンスパーク横浜と、抗体に続く新規モダリティである中分子の治験原薬の製造棟が着工しています。

<2020年12月期業績見通し>

2020年12月期は、増収増益により売上・利益とも4期連続で過去最高を更新する見込みです。薬価改定および後発品発売の影響等を主因として国内製商品売上高が減少するものの、海外製商品売上高の増加に加え、主にヘムライブラに関するロイヤルティ収入の増加により、売上収益は7.8%増、Core営業利益は22.3%増、Core当期利益は19.9%増の見通しです。研究開発では、独自の抗体エンジニアリング技術を用いたスイッチ抗体による初めての臨床試験や、発作性夜間ヘモグロビン尿症を対象として開発中のリサイクリング抗体 crovalimab（開発コード：SKY59）の第Ⅲ相グローバル試験を開始する予定です。

年間配当予想額は1株当たり150円、予想Core配当性向は5年平均で45.0%（単年度では41.0%）です*。

*2020年7月1日を効力発生日として、普通株式を1株につき3株の割合で株式分割を行います。年間配当予想額および配当性向は、株式分割を考慮しない場合の数値を記載しています。株式分割を考慮した場合の配当予想額は、中間が75円（分割前）、期末が25円（分割後）です。

<中期経営計画「IBI 21」：計量目標の上方修正>

2019年度実績および今後の業績拡大見通しを反映し、IBI 21の計量目標である3年間のCore EPS年平均成長率目標を見直し、「High single digit」から「30%前後」（一定為替レートベース、株式分割を考慮しない場合）に上方修正します。

<配当方針の変更>

従来の配当方針を改め、Core EPS対比の配当性向の目途を「平均して50%」から「平均して45%」（株式分割を考慮しない場合）に変更します。戦略的な投資資金需要や業績見通しを勘案し、安定的な配当を行う方針に変更はありません。一方、ライフサイエンスやデジタル技術が飛躍的に進化する中、新たな事業価値の創造に向け、機動的かつ重点的な戦略投資を可能とする財務基盤の確保が必要です。将来の投資機会や資金調達計画を考慮し、今後も安定的な配当政策を維持するため、配当方針を変更します。

【2019年12月期実績】

(億円)	2019年	2018年	前年同期比
連結損益（Core実績）			
売上収益	6,862	5,798	+18.4%
製商品売上高	5,889	5,278	+11.6%
ロイヤルティ等収入及びその他の営業収入	973	519	+87.5%
営業利益	2,249	1,303	+72.6%
当期利益	1,676	973	+72.3%
連結損益（IFRS実績）			
売上収益	6,862	5,798	+18.4%
営業利益	2,106	1,243	+69.4%
当期利益	1,576	931	+69.3%

【2020年12月期通期業績予想】

(億円)	2020年見通し	2019年実績	前年同期比
連結損益 (Core)			
売上収益	7,400	6,862	+7.8%
営業利益	2,750	2,249	+22.3%
当期利益	2,010	1,676	+19.9%

【研究開発活動の進展】(2019年10月24日～2020年1月30日)

発売	ヘムライブラ テセントリク	台湾:血友病A(インヒビター保有) TNBC至適用量製剤(点滴静注840mg)	2019年11月 2019年11月
承認	ヘムライブラ テセントリク F1 CDx	台湾:血友病A(インヒビター非保有) NSCLC一次治療(他の抗悪性腫瘍剤との併用) ロズリートレク CDx(<i>ROS1</i> + NSCLC)	2019年10月 2019年11月 2019年12月
申請中	サトラリズマブ	NMOSD(日本)	2019年11月
パイプライン エントリー	テセントリク+アバスタチン テセントリク+アバスタチン tiragolumab FAP-IL2v	肝細胞がん(アジュバント) 小細胞肺がん 固形がん 固形がん	第Ⅲ相 第Ⅲ相 第Ⅰ相 第Ⅰ相
パイプライン より除外	CK127 抗ミオスチンadnectin ネモリズマブ	Verastem Oncology社 デュシェンヌ型筋ジストロフィー 透析そ痒症	導出(2020年1月) 開発中止 開発活動の一時停止
当局による 指定	ネモリズマブ ボラツスマブヘドチン	結節性痒疹に伴うそ痒 びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	Breakthrough Therapy指定 希少疾病用医薬品指定
後期開発品 トップライン 発表	リスジブラム リスジブラム テセントリク	Ⅱ型/Ⅲ型 脊髄性筋萎縮症 Ⅰ型 脊髄性筋萎縮症 筋層浸潤尿路上皮がん(アジュバント)	第Ⅱ/Ⅲ相(SUNFISH試験) 第Ⅱ/Ⅲ相(FIREFISH試験) 第Ⅲ相(IMvigor010試験)
学会発表	テセントリク+アバスタチン パージェタ/ハーセプチン crovalimab パージェタ	肝細胞がん / IMbrave150試験 配合皮下注製剤 / FeDeriCa試験 PNH / P1/2 COMPOSER試験 HER2陽性早期乳がん(アジュバント) / APHINITY試験	ESMO ASIA2019 SABCS2019 ASH2019 SABCS2019
その他	サトラリズマブ	NMOSD / SAKuraSky試験(Add-on)	NEJM論文掲載

F1 CDx: FoundationOne CDx NSCLC: 非小細胞肺がん TNBC: トリプルネガティブ乳がん
NMOSD: 視神経脊髄炎スペクトラム障害 PNH: 発作性夜間ヘモグロビン尿症

オレンジ: 自社品

Core 実績について

当社はIFRS移行を機に2013年よりCore実績を開示しております。Core実績とはIFRS実績に当社が非経常事項と捉える事項の調整を行ったものであり、ロシユが開示するCore実績の概念とも整合しております。当社ではCore実績を、社内の業績管理、社内外への経常的な収益性の推移の説明、並びに株主還元をはじめとする成果配分を行う際の指標として使用しております。

上記本文中に記載された製品名は、法律により保護されています。

以上